

こどもたちに**何**を学んでもらうのか？



ダンボールで
仁徳天皇陵古墳をつくる



足ふみ式脱穀機で
むかしの農作業を学ぶ

2025年 **10月25日(土)** 午後2時～4時30分 (午後1時30分開場)

会場 堺市博物館ホール

参加費 無料

定員 80名 (事前申込制。先着順)

申込方法 ①②いずれかの方法でお申し込みください。

①堺市電子申請システム：堺市博物館ホームページ内の「10月25日フォーラムご案内」から
申請ページにアクセスの上、お申し込みください。(期間：10月10日～23日)

※詳細はこちら https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/play/event/forum_kyoiku.html

②往復はがき：往信面に氏名・住所・電話番号・参加希望人数、返信面に返信先をご記入の上ご郵送ください。

※宛先：590-0802 堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内

堺市博物館「10月25日フォーラム係」(10月22日必着)



申請ページはこちら

堺市博物館は、平成 14（2002）年度以来、小・中学生を対象とした「体験学習会」を開催してきました。学習のテーマは、主に古墳時代です。博物館のまわりにある古墳や、博物館で展示している埴輪などの出土遺物にちなみ、ダンボールや粘土を使って工作したり、復元した甲冑を身に付けたりすることによって、楽しみながら古墳時代の歴史に触れてもらおうという目的でおこなっています。

堺市博物館だけではなく、日本各地に数多くあるミュージアムでは、こどもたちにさまざまな学習の機会を提供しています。

こどもたちは、ミュージアムから何を学ぶのでしょうか。こどもたちが日々学んでいる学校での教育に対して、ミュージアムではどのような教育活動が可能なのでしょうか。

このフォーラムでは、ミュージアム教育に携わる 4 人の専門家が集い、失敗事例も含めてさまざまな事例を報告した後、座談会により意見交換をおこない、ミュージアムを場とする教育活動の可能性を探ります。

第 1 部 午後 2 時～3 時 20 分

報告① 学校や家庭にとって魅力ある博物館とは？

遠藤 浩也（堺市博物館 職員、元教員）

「本物が見られる」「歴史が分かる」「体験ができる」。これが博物館のイメージだろう。来館した学校にどのような取組をし、体験学習会ではどんな体験ができるのか。学校と博物館の連携をどのようにするのか。失敗例も含めて話したい。

報告② 堺市博物館での展示における教育活動

橘 泉（堺市博物館 学芸員）

博物館の展示は、こどもにとって「難しい」ものになりがちである。どうすれば、こどもたちが楽しい・面白いと思う展示となり、こどもたちの学びにつながるのか考えてみたい。

報告③ こどもにとって、美術館は行きにくい？行きやすい？

鬼本 佳代子 氏（国立国際美術館 研究員）

「美術館は子連れでいきにくい」というのはしばしば聞く言葉であるが、そのイメージに反して、多くの美術館でこども向けの活動が実践されている。発表者が長く勤めた福岡市美術館の活動を例に、美術館でこどものための活動をすることの意味について語りたい。

報告④ 生きた昆虫を中心にした伊丹市昆虫館の教育活動

坂本 昇 氏（伊丹市昆虫館 館長）

伊丹市昆虫館は昆虫を主に扱う博物館で、生きた昆虫を一年中展示しているのが特徴である。こどもたちへの教育活動も、生きた昆虫と親しむ活動が中心である。その他、地域での事業「鳴く虫と郷町」についても紹介する。

第 2 部 午後 3 時 30 分～4 時 30 分

座談会 ミュージアムでの教育活動 こどもたちに何を学んでもらうのか？

鬼本佳代子氏、坂本昇氏、遠藤浩也、橘泉、司会：宇野千代子（堺市博物館 学芸員）



特別展「堺の竹工芸家たち—前田竹房斎と田辺竹雲斎—」開催中！
観覧は有料です。

交通案内

- 電 車 JR 阪和線「百舌鳥」駅下車 約 500m
- バ ス 南海高野線「堺東」駅から南海バス（140 系統で約 10 分）
バス停「堺市博物館前」下車 約 280m
- 駐車場 大仙公園第 3 駐車場（仁徳天皇陵古墳東南・有料）

堺市博物館
Sakai City Museum

〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町 2 丁 大仙公園内
電話：072-245-6201 FAX：072-245-6263
<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/>